



変化してしまう『意味』

近ごろ、急激に、インターネット上の意見、情報が影響力を強めていますね。そのことが、良い事か悪い事かは、時と場合と、その人の置かれた立場にもよるようです。

隠しておきたかったことが暴かれてしまい、「良い人」認識の有名人が「悪い人」だったとされたり、「悪事を働いている」と思われていた人が、情報提供者によって「本当は良い人だった」ということになったり、テレビや新聞で報じられているお話と、インターネットで発信されているお話が、真逆ということも少なくありません。

カウンセリングのなかでも「誰のどの情報を信じて、どのような行動を取ったらよいのかがわからなくなった」というご相談が増えています。

ここ数年で、ユーチューバーが選挙に出て国会議員になったり、東京都知事選挙では、地方の元市長が立候補した際、インターネットを活用したことで、他の有名候補をおさえて二位の票数を得たりと、政治にもインターネットの影響が出ています。兵庫県知事選挙では、パワハラ等の疑いで辞職した元県知事が再選を果たしましたが、これも、テレビや新聞での報道と真逆の情報がインターネットで拡散され、多くの人がいわゆる『ネット情報』の方を信じた結果だったと言えます。政治家自身が、ブログや SNS、YouTube チャンネルをやっていて自分の心情や活動を発信することも急増しました。

政治家は選挙で一定数の票を集めることでその立場を得るのですが、このように票を入れる人たち、つまり有権者の関心や行動が大きく変化していることについて、問題視する人と、讃美する人があります。テレビや新聞などの「メディアにはスポンサーがついているため、報道内容に制限がある」と指摘して、インターネット内での自由な発言を重要視する人もあれば、「誰でも好き勝手に発言できて、責任の所在もわからない『ネット情報』を鵜呑みにできない」と不確かな情報を危険視する人もあります。

確かに、昨今のフジテレビ問題などで大手メディアには、いろいろな意味で限界があることもわかります。また、災害時に「動物園から猛獣が逃げた」などのデマ情報が流れたり、AI で作成された偽の動画が拡散されたりする時代でもあり、インターネット内の情報にはかなり怪しいものがあります。

私たちの行動は情報によって左右されています。朝の天気予報をみて傘を用意する人、電車の運行情報をみていつもとは違う別ルートを検索する人、先に挙げた選挙候補者の情報を調べたり、米不足などのニュースをみて、多めに買い置きされる人もあります。





これまではテレビなどのメディアから、専門家や有名タレントの話を聞いて影響を受けていた行動ですが、この数年で変化は、リアルタイムでの『知らない誰か』のつぶやきや、インフルエンサーと呼ばれるインターネット上で発言力の大きい人たちの言動で行動に影響を受ける人がかなり増えたということです。情報の発信媒体が増えたというだけでなく、スマートフォンの普及は言語の壁も低くしています。カウンセリングをされていて驚くのは、外国人のご相談です。以前は日本人よりも上手に日本語を話す外国の人がカウンセリングにいらしていましたが、現在はほとんど日本語ができない人がいらしています。お互いにスマホをかざし合いながら、片言交じりに対話をする機会が増えました。日本のニュースの内容も、別の国のニュースでは全く違う内容になっていることにも、あまり驚かなくなりました。立場が変われば『善悪』も『損得』も意味が変わります。

それらの『変化してしまう意味』について、私たちはこれまでにはなかった自己責任が求められているようです。日本では与党や総理大臣が替わっても、大して社会に変化はありませんが、他の国では大きく変化します。

アメリカでは大統領が替わった直後から、様々なことが逆向きに変わりました。たとえば、前政権では声高に掲げられていた『DEI』、ダイバーシティ（多様性）、エクイティ（公平性）、インクルージョン（包括・受容）が見直され、現場の実態や当事者の能力に見合う評価や判断が重視されるようになりました。LGBTQなどのマイノリティーの方が優遇されていた就職や、黒人や女性を優先的に採用しようという学校や企業の方針も弱まりました。この動きについても意見はわかれます。あるべき状態に戻ったと感じる立場の人がいれば、権利や自由を侵害されたと嘆く立場の人もあります。

そして、これら、それぞれの感情や考えは、インターネット上へと吐き出されてゆきます。強い不満や不安が共有され、励まし合ったり、慰め合ったり、同じ思いの仲間を求めて集まり、やがて、敵対する相手をみつけて対立するようになります。

先ほど、日本ではトップが替わってもさほど社会に変化はないと言いました。その理由のひとつに国民性を思います。私たち日本人は、大半が自分の意見を強く持っていません。その代わりに自分たちを導いてくれる相手を求めてしまいます。力のあるリーダーに従い、力の弱いリーダーにはがっかりし、別のリーダーを求めますが、なかなか自分が代わりにリーダーになろうと言う人が少ないのが現状ではないでしょうか。





こころの中で誰かの意見に賛同したり、反発したとしても、多くの人はその声を大にはしません。これだけ、インターネットで『言いたいことを言ったもの勝ち』の社会のようにみえても、実際に発信している人は、全国民のごく一部です。そして、『発信できる人』の意見に賛同するか、しないかは『いいね』という数字で反映されています。『発信できる人』に物申したり、噛み付く人もいて、いわゆる『炎上』となることもあります。やはり、全国民からみたらほんのひと握りだと思います。賛同も反対も匿名でこっそりとする人が大半です。

私は、「今、どのくらいの人か、自分の意見を言えるか、自身を主張できるか？」ということが気になり、カウンセリングに限らず、出会う様々な方に、ある質問をしてきました。

「外食したお店で味の悪いパスタが出されたらどうする？」というものです。

あなたならどうされるでしょうか。

「黙ってそのまま食べる」

「テーブルに塩や胡椒などがあれば、それで大丈夫」

などの声が多くあり、私は驚いています。

特に十代、二十代の方は、ほとんどこの回答です。

年齢があがるほど、

「店員さんに伝えて換えてもらう」

という意見が多くなります。

伝えるにしても、「なるべく嫌味や迷惑にならないように」などを気にされる方も多いことにも感心しました。

これらは『相手への思いやり』からなのか、自分が『恨みを買いたくない』という自己防衛なのか、尋ねてみると、だいたい、「どちらも」と答えられます。

質問をかえて、自分にではなく、同席している家族や友人、恋人に「味の悪いパスタが出されたら？」とすると、自分だったら「黙って食べる」と答えた人たちが、「店員さんに伝えて換えてもらう」に意見が変わります。やはり十代、二十代に多いです。

「自分のことで主張するとクレマーみたいで嫌だけど、他の人が困っていることは見過ごせない」ということだそうです。

基本的に「自分がどう思うか」ということよりも、「相手がどう思うか」や「自分がどう思われるか」ということの方が優先順位が高いようです。





すべて国民性で括るのは乱暴ですが、私がカウンセラーとして様々な日本人とお話しし、外国人とのお話しとの対比から感じる日本人像は、

- 自分のことより、人のこと（思いやりだけでなく、自己防衛も含む）
- 誠実で強いリーダーを求めるが、自身がそうなるうとはあまり思わない
- よくわからない主張は、探求するより、人数の多さか、声の大きさに判断
- 何かしらの被害者からの訴えは、疑問は持たずすべて受けとめる姿勢（受け入れているかは別）

などが挙げられます。

このよう人たちが沢山いて、テレビや、インターネット問わず『発信できる人』からの意見や情報に影響を受けて行動しています。そして、自分の信じている『発信できる人』とは反対の意見や情報に対して、反発を覚えます。反発する人はまだしも、ただただ、混乱して、私のところに相談に来られる方も少なくありません。

よく効く薬にかなり強い副作用があったり、大嫌いな人が一番自分を助けてくれていたり、探求するうちに、意味が変わってくることはいくらでもあります。

探求することで混乱してしまう人が、探求をやめることもひとつの決断です。し、探求を続けるという決断が、元々の探求の意味を失うこともあります。私自身、「カウンセリングって何をすることだったっけ？」などと、日々、変わりゆく『意味』に翻弄されています。



発行 本山社会保険労務士事務所 東京都杉並区井草 1-2-1 11-302

発行年月日 2025年3月

*筆者は現在クリニックでカウンセラーをされています。仕事の関係上氏名の公表は控えさせていただきます。 Copyright (C) 2025 本山社会保険労務士事務所 All Rights Reserved

